

虫博士が問いかける「自然とは何か？」
— 虚実を超える美の世界 —



養老孟司 × 細見コレクション



Can insects be involved in arts?



2021.10.29金 》 2022.1.23日 *一部展示替えあり

開館時間 | 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日 | 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日) 年末年始(12月27日～1月4日)
入館料 | 一般 1,300円 学生 1,000円 主催 | 細見美術館 京都新聞 特別協力 | 有限会社 養老研究所 新潮社
監修 | 養老孟司(東京大学名誉教授 京都国際マンガミュージアム名誉館長)
会場 | 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>

急激な状況の変化により、止むを得ず会期・営業日時等を変更する場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。

上: 伊藤若冲 糸瓜群虫図(部分) 中左: 秋草虫時絵螺鈿小箱(部分) 中右: ホウセキゾウムシの標本(部分) 下: 養老孟司 photo by 新潮社



特別展

虫めづる日本の美

虫めづる日本の美

養老孟司 × 細見コレクション

解剖学者の養老孟司は、無類の昆虫愛好家、昆虫学者としても知られ、世界各地を訪れて、不思議と驚異にみちた虫たちの生態を探求しています。古来、我が国の人々はゆたかな風土に育まれた様々な虫たちに親しみ、その姿を写し愛でてきました。

本展では、養老孟司が細見コレクションから選ぶ、虫を表した絵画・工芸作品約60点を紹介します。写実の精緻を極めた伊藤若冲の「糸瓜群虫図」、宝石のような虫たちが^{もりば}鑲められた蒔絵の小箱など、みずみずしい好奇心にあふれる虫博士の眼が会った、日本の美に息づく儚くも美しき生命を、どうぞ鑑賞ください。

加えて養老孟司が親交を結ぶ作家の、独特な自然観やデジタル技術によって表現された作品も紹介します。

住吉如慶
きりぎりす絵巻(下巻・部分)



“日本人が自然を捉える眼の確かさを感じる”



四季草花草虫図屏風(右隻・部分)



重要文化財
羽黒山御手洗池出土銅鏡のうち
網代蝶鳥鏡

養老孟司

ようろうたけし

1937年 鎌倉市生まれ。解剖学者。

東京大学名誉教授・京都国際マンガミュージアム名誉館長。

著書：『唯脳論』『身体の文学史』『からだの見方』(1989年 サントリー学芸賞を受賞)『人間科学』『バカの壁』(2003年 新語・流行語大賞、毎日出版文化賞特別賞を受賞)『死の壁』『養老先生と遊ぶ』(監修)ほか多数。

小学校4年生から昆虫採集をして標本を作製。現在は箱根に通称「養老孟司昆虫館」(非公開)を持ち、鎌倉の建長寺に虫塚(設計:隈研吾)を建立、毎年6月4日「虫の日」には虫供養を行う。現在はゾウムシの分類に凝る。

昆虫に関する論文も多く、新種もいくつか記載している。

特別展示 虫博士が贈る美しき虫の世界

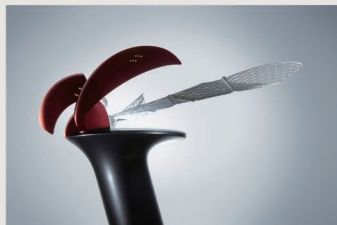
“たかが虫 — 実物以上に実物だ!”



おさむしの合子
分島徹人

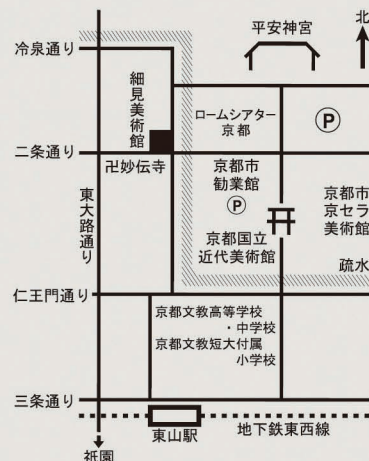


TOBIKERA
小檜山賢二



Ready to Fly
山中俊治+斉藤一哉+杉原寛+
谷道鼓太郎+村松充

photo by Yusuke Nishibe



●市バス「東山二条・岡崎公園口」下車、徒歩3分。
●市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩5分。
●地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩10分。
ご来館には公共交通機関をご利用ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご入館および施設のご利用にあたってはマスクをご着用ください。
また、急激な状況の変化により、止むを得ず会期・営業日時等を変更する場合があります。
詳しくはホームページをご覧ください。



細見美術館

次回展予告

細見コレクション 根来 NEGORO 2022年2月1日(火)~4月10日(日)